



## 学校のビジョンの明確化と管理職のリーダーシップ

### ■ 学校の理念・ビジョンの明確化

- 不登校対策を「学校の重要課題」の一つに掲げ、学校ぐるみで取り組んでいる学校が増えている。不登校対策は、いじめ防止対策や、特別支援教育とも関連させ、**生徒指導の総合的な対策**としてとらえることができる。

◆ A小学校では、不登校対策を学校の課題と位置付け、全職員で組織的に取り組んでいる。管理職が「**友人関係やいじめが原因の不登校児童だけは絶対に出さない**」という強い決意をもって生徒指導に取り組んでいるのも印象的であった。

◆ B中学校では、学級担任の学級経営の力量を高め、学級づくりに力を入れるという校長の方針が、廊下の掲示物等の環境整備、昇降口の整頓状況、休憩時間の生徒の様子（気持ちのよいあいさつができる）から、教職員によって徹底されていることが分かった。不登校対策の基盤となるところである。

マークは、実践事例を示している。

### ■ 細やかな実態把握

- **校長が児童生徒の実態を細やかに把握することが**、学級担任への適切なアドバイスを可能にする。保護者との関わりにおいても、校長が児童生徒のことを細かなところまで知っていて支えてくれていると感じることができたら、家庭との連携はうまく機能していくと考えられる。校長、教頭が児童生徒や家庭の状況等をつぶさに把握している学校は、適切な取組がなされているケースが多い。

### ■ 教員への動機付け

- 校長が教員を支えてくれると感じているとき、教員は自信をもって児童生徒や保護者と関わるができる。校長の役割で重要なことは、**教員にやる気と自信を与える**ことである。

◆ 不登校児童生徒が出現すると、担任だけが責任を感じてしまうケースが多い。決してそうではなく、学校にはできる部分とできない部分とがある。担任に対する指導に当たっては、様々な生徒に対応できる引き出しをきちんと持つこと、日常的なつながりが一番深いのは担任であり、自信をもって取り組むことを常に話しているという校長や、「不登校生徒を自分一人で抱え込んだり、大きな責任を感じたりする必要はない。みんなで対応しよう。」といったさりげない声かけを行っている校長もいる。

### ■ 管理職の行動力・実践的指導力

- 校長、教頭が不登校児童生徒の家庭を訪問する事例もたくさんある。児童生徒や保護者に「校長（教頭）先生が心配して、わざわざ来てくれた。」ということを感じさせることは、今後の関わりにおいて重要な意味をもつことになる。児童生徒や保護者にとって「**顔の見える校長・教頭**」であることは大切なことである。
- 関係機関と連携を図る際、関係機関と学校との信頼関係がないところで、協力を依頼してもなかなか学校が期待する取組等をしてもらえないのが現状である。そのため、問題の発生時のみならず、管理職が定期的に関係機関に足を運び、学校の現状を伝えておく等の**日ごろの働きかけ**により、信頼関係を築いておくことが大切である。
- 校長自身が問題解決に向けた実践事例を多くもっており、それを教職員に対し、タイムリーに助言している学校もある。管理職が自ら**実践的指導力**をもち、具体的な指導・援助等ができるようにすることも大切である。